

ハーモニー

(第17号)



発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
 電話:22 - 2212 FAX:22 - 3910 メール:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

下田っ子の減少について・・・

全国的に少子高齢化が進む中、来年度より、中学卒業までの全ての子どもに、1人あたり月1万3,000円の子ども手当が支給される予定など、子育て支援の充実が図られてきています。

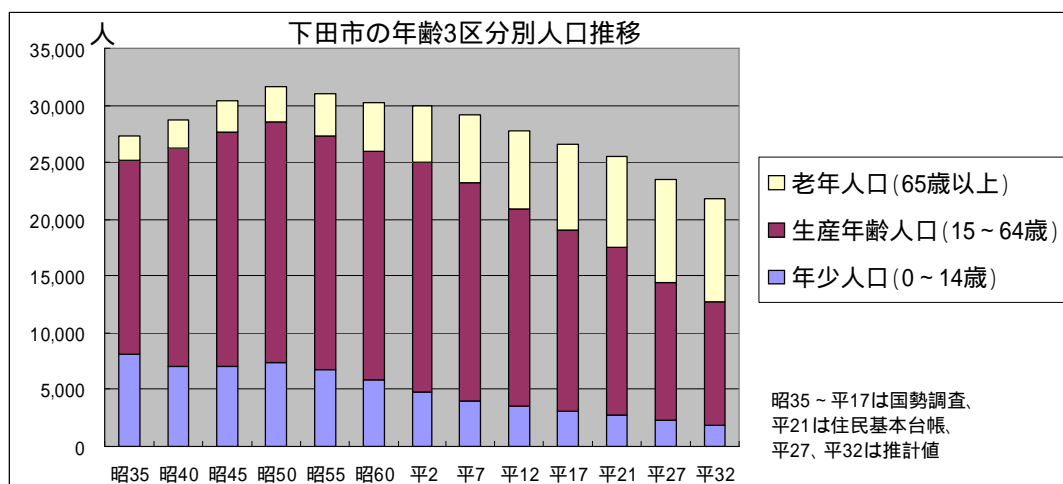
下田市においては、15歳未満の年少人口は、昭和35年に8,063人で全人口の29.4%を占めていましたが、平成21年には2,793人(昭和35年比34.6%)と激減し、全人口の10.9%となっています。

一方、65歳以上の老年人口は昭和35年に2,161人で全人口の7.9%だったのに対し平成21年では8,078人(同370%)と増加し、全人口の31.6%となっています。

将来推計をみても年少人口は平成32年には1,834人と平成21年の65.6%となる見込みで減少は止まりません。

子ども手当や高校の無償化といった政策はもちろんです。育児環境や労働環境の改善など社会全体で少子化に対応していくことが重要となってきます。

下田っ子が増え、元気な声が市内中に響き渡ってほしいですね！



ハーモニーに関するご意見やご感想、掲載内容に関するご要望をお待ちしております。

下田市役所企画財政課

〒415-8501 下田市東本郷1丁目5番18号

電話:22-2212 FAX:22-3910 メール:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

みんなで守る地域防災について

12月の第1日曜日は、昭和19年12月の東南海地震発生にちなみ地域防災の日になっています。災害が起これば、老若男女関係なく誰もが活動しなければなりません。

河内地区の民生委員児童委員の小室由喜恵さんから、河内地区で行われた自主防災訓練の様子をお話しいただきました。

民生委員児童委員とは？

民生委員児童委員は、常に地域の人々が安全で安心して暮らせるよう「広げよう地域に根ざした思いやり」のスローガンを胸にそれぞれが地域において、地道な活動を続けています。また、「災害時一人も見逃さない運動」にも取り組んでおり、各地で地域に合わせた様々な取り組みが進められています。



今回、河内区ではどのような訓練をされたのですか？

災害は、いつどのように起こるかわかりません。日中に起これば、動けるのはお年寄りと女性だけになるかもしれません。今回は全員で可搬ポンプと消火器による初期消火訓練を行い、次に男性が材木の切断と発動機の作動訓練、女性が三角巾による救急法、竹の棒と毛布を利用しての担架作りと運搬、最後に各地区に分かれて、消火栓からの放水訓練を実施しました。いずれも男女に関係なくできるようにならなければなりません。訓練の積み重ねの大切さを感じました。

民生委員児童委員としての活動もされたようですが？

今までは訓練終了後に高齢の一人暮らし世帯を訪問して、家具の固定や避難場所の確認、安全な就寝場所についてなどを話し合い、防災に関心を持っていただくことで、自分の安全は自分で守るという意識を高めていただけていました。

今回は、市において災害時要援護者台帳(*)が整備されたので、これを機に9時のサイレンから区の訓練開始時刻の9時半までの30分間、災害時に一番に取り組むべき安否確認作業を災害時要援護者台帳をもとに実施しました。私は20軒27名の受け持ちがありましたが13軒しか回れませんでした。



防災訓練を通して感じた事は？

訓練へ参加する事の必要性和1人では思うような活動は出来ない事、そしてみんなの協力が必要不可欠である事を実感しました。

例えば、安否確認も一人で広範囲にわたる該当者宅を早急に回る事には限界があります。もし、家具等の下敷きになっていたりしたらその対応に追われ、次に進む事はできなくなるからです。

自分の安全はまず自分で守るという意識のなか、地域の安全も地域みんなの力で守らなければなりません。そのためには、小地域でのネットワークを日頃から作っていくことが大切だと思います。

* 災害時要援護者台帳・・・高齢者や障がい者などの方々へ、災害時に適切な支援が行えるよう、現在の状況を登録してもらっています。現在市内1,000人強の登録あり。
河内区では区独自で同様の「一声かけて」カードの作成・保管も行っている。

災害時要援護者台帳に関する問合せ先：市役所 福祉事務所 電話 22 - 2216



東伊豆町女性消防団 班長 千葉さん

東伊豆町では、女性の消防団員さんが活躍されていると聞き、女性消防団の班長をされている千葉真紀さんにお話を伺いました。

始めたきっかけは？

以前から興味があったのですが、5年前に町が女性消防団をつくるということで始めました。当時主人が消防団の本部にいたので始めやすい環境でもありました。

お子さんがいらっしゃるようですが？

子供は1歳半から小学4年生まで4人いますが、下の子の面倒は上の子が見てくれるので助かります。女性消防団員6人全員が子育てをしながら活動しています。



【1歳半の娘さんと千葉さん】

どういった活動をしているのですか？

月1回の会議や放水訓練のほかに、小学校や幼稚園、保育園で防災教室や花火教室を開催し、啓発活動をしています。また、全員が応急救護指導員の資格をもっているため、救急の方と一緒にAED(*)の使用方を教えるにも行きます。火災現場では消火活動は基本的には行きませんが、応急手当を行ったりします。

* AED(自動体外式除細動器): 電氣的なショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器

やっていてうれしかったことは？

防災教室や花火教室のときに子供たちに『また来てね!』っていわれるのが一番嬉しいです。あと、制服を着ているので『かっこいい』といわれるのも嬉しいです。



今後の目標は？

独居老人の見守りなどやりたいことは多いのですが、人数が少ないのでやることをしっかりとやっていきたいです。人数も増やしたいのですが、「火事に出るのが嫌」となかなか増えないのが残念です。

県内では、裾野市や熱海市、富士宮市などでも女性消防団が活躍しているので、下田市でも女性消防団が出来ると心強いですね。

男性に負けないように女性消防団を強くしていきたいです。

今回は地域の防災活動をされているお2人からお話を伺いました。民生委員さんと消防団員さんと立場は違いますが、地域の安全を守りたいという熱い気持ちでいっぱいでした!そして、《地域みんなで助け合って地域を守っていく必要性》を共通して話されていました。長い間民生委員をされている小室さん、4人のお子さんを育てながら自営業も手伝うパワフルな千葉さん、本当にありがとうございました!!

ご案内

福祉講演会「情けは人のためならず」

～生きる事の意味を一緒に考えよう～

『福祉』という言葉を目にしない日はありません。また、地域では《子育て》《孤独》《低所得》など支えを必要とする人の声が絶えません。

私たちが考えなければならないこと、「生きる」ことの意味を一緒に考えてみませんか。

日時・場所

平成22年1月20日(水) 13:30～14:45
下田市民文化会館 小ホール

【講師】 天野隆玄氏 (下田市民生委員児童委員協議会会長)

【参加費】 無料(申込不要)

【問合せ先】 下田市社会福祉協議会 電話：22-3294

下田市女性の会 電話：22-6910(山下)

【主催】 下田市女性の会 【協力】 下田市社会福祉協議会



～トピックス～

敷根の下田市民スポーツセンター(サンワーク下田)の駐車場に建設中の子育て支援センターも建物らしくなってきました。
4月の開所が待ち遠しいですね！



参加費無料！

「子育てボランティアの役割とは？」

～みんなで子育て考えませんか～

一時保育は、短時間だけ、その日限りの出会いの保育で一般の保育とは違うものです。10年以上の一時保育の活動経験談をお話するとともに質問コーナーもあります。

日時：平成22年2月6日(土) 13:30～15:00

場所：道の駅 開国下田みなと(バイステージ下田) 4F 会議室3

講師：萩原邦子氏

(保育支援グループすわん代表:静岡市の一時保育活動の団体)

参加費：無料

対象者：子育てボランティア活動者及び子育てボランティアに関心のある方(定員50名)

問合せ先：下田市社会福祉協議会 電話22-3294(久保田)

主催：下田市地域福祉活動計画推進会(社会サービス部会) 共催：下田市社会福祉協議会

男女共同参画情報紙「ハーモニー」は、下田市役所ホームページでもご覧いただけます。

アドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/> 下田市役所(Top 市政ガイド 男女共同参画)